

ウェアラブルデバイスを活用した 外出機会創出実証事業の結果について



【事業概要】

排泄予測デバイスDFreeを市民に貸与することによりトイレの不安を軽減し、外出機会を創出することで市民の生活の質の向上を図ることを目的に社会実装を見据えて事業を実施しました。

【実証結果】

令和6年度実証参加者のアンケートでは、外出意欲の向上については「60.9%向上」したものの、トイレの不安は「一定程度改善」に留まりました。

()内はKPI	令和4年度	令和5年度	令和6年度
実証参加者数	18人	68人(100人)	27人(100人)

【事業の終了について】

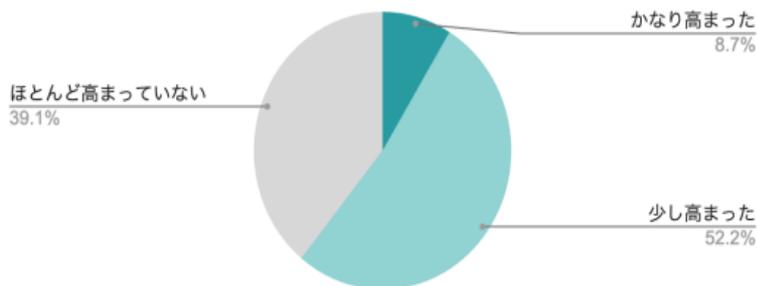
本事業は、トイレ不安を解消し外出意欲を向上させることに一定の成果が認められるものの、実証参加希望者が非常に少なく、実証参加者アンケート結果でも、DFreeを継続して使用したくない人が8割以上という結果になりました。一方、骨盤底筋訓練・膀胱訓練に関する講演会参加者は139人と非常に多かったことから、機器に頼らずにトイレ不安を解消したい方が多いことが伺えます。以上のことから、DFreeには社会実装に必要な需要が認められないと判断し、令和6年度を以って事業を終了することとしました。

令和6年度実証参加者アンケート結果

参加者数27名うち、アンケート回収できたのは24名(男女比は男12名女12名)
講演会参加者数139名

外出意欲→高まった

外出意欲の向上

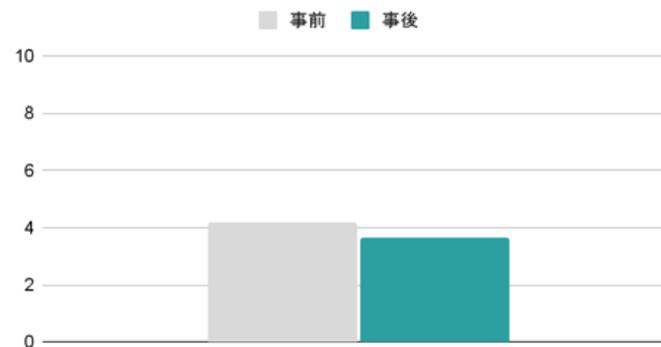


本事業に参加した60.9%は実証後、外出意欲が高まった（かなり高まった・少し高まった）と回答した。

トイレ不安(外出時)

→改善がみられる

外出時のトイレの不安(10段階)



外出時のトイレの不安については平均4.16ptsから平均3.67ptsに0.49pts軽減する結果となった。

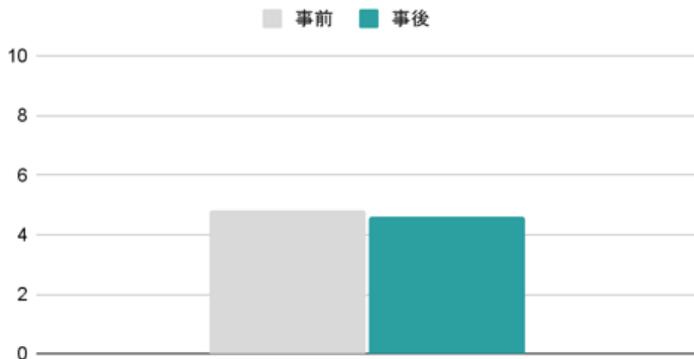
令和6年度実証参加者アンケート結果

参加者数27名うち、アンケート回収できたのは24名(男女比は男12名女12名)
講演会参加者数139名

トイレ不安(日常生活)

→若干改善がみられる

日常生活におけるトイレの不安(10段階)

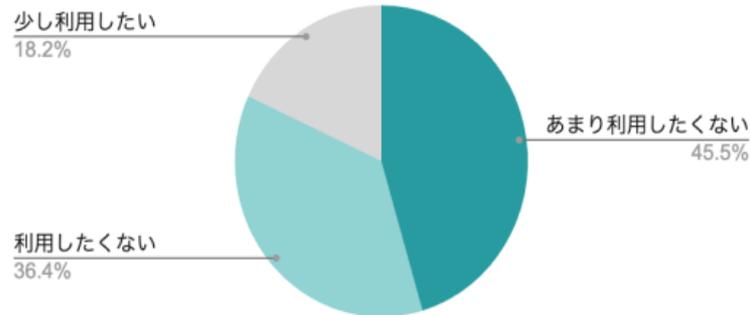


日常生活におけるトイレの不安については平均4.84ptsから平均4.58ptsに0.26pts軽減する結果となった。

DFreeの継続利用

→利用したくない

機器・アプリの利用の継続



機器の継続利用については18.2%のみが継続したい（少し利用したい）と回答した。